

博物館だより



No.94

平成26年2月1日

みやこ町歴史民俗博物館発行
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13
TEL 0930-33-4666

企画展

『発掘された みやこ町2014』

企画展では、来る2月25日(火)から3月30日(日)まで、企画展「発掘されたみやこ町2014」を開催いたします。今回の企画展では、主として、みやこ町発足後(平成18年3月)に行われた埋蔵文化財の発掘調査の成果を紹介いたします。もの言わぬ出土品が、郷土の歴史を雄弁に語りかけます。ぜひ、ご来館ください。

【会期】平成26年2月25日(火)～3月30日(日)

【開催場所】当館展示室

【観覧料】常設展示の観覧料で、観ただけです。大人200円、高校生以下100円

2月の歴史講座

【漢詩紀行講座】

2月1日(土) 9時30分～

【古文書講座】

2月8日(土) 10時00分～

【古典かな講座】

2月15日(土) 9時30分～

【金曜古文書講座】

2月21日(金) 10時00分～

【みやこ学講座】

2月22日(土) 10時00分～

歴史学習DVD

みやこの歴史発見伝!

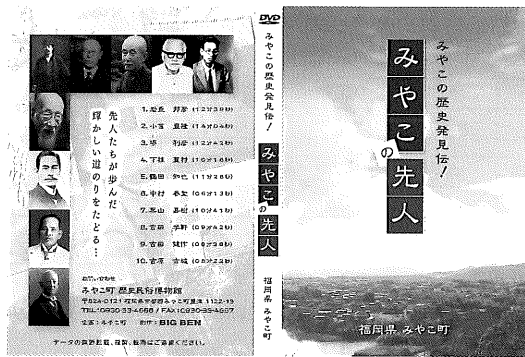
みやこの先人

現在のみやこ町出身で、後世に名をのこした先人を顕彰するDVD「みやこの歴史発見伝!みやこの先人」を当館にて好評販売中です。

ナビゲーター役の女性が先人ゆかりの土地や人を訪ねながら、その人生と業績を紹介する内容で、10名の先人をとりあげて、1名につき1本、計10本の映像ソフトにまとめられています。先人を切り口にわが町を見ると、驚くような発見がいつぱいです。郷土を愛するには先ず郷土を知ることから。ぜひ、「みやこの先人」をお手元に!



- | | |
|----------|-----------|
| 1. 岩垂 邦彦 | 6. 中村 春堂 |
| 2. 小宮 豊隆 | 7. 葉山 嘉樹 |
| 3. 堺 利彦 | 8. 吉田 学軒 |
| 4. 下枝 夏村 | 9. 吉田 健作 |
| 5. 鶴田 知也 | 10. 吉原 古城 |



- DVD収録の先人10名
- 岩垂邦彦(NEC創業者)
- 小宮豊隆(独文学者・漱石門下)
- 堺利彦(日本社会主義運動の父)
- 下枝董村(異才の書家)
- 鶴田知也(芥川賞作家)
- 中村春堂(かな書道の名手)
- 葉山嘉樹(プロレタリア作家)
- 吉田学軒(元号「昭和」創案者)
- 吉田健作(近代製麻業の父)
- 吉原古城(書家・漢学者)

■販売価格 1枚1000円

■販売場所 当館カウンター

1月の業務日誌から

1月14日・15日、京都東山文化スタディ講座の第1回講座として「京都東山文化スタディツアー」が実施されました。

今回の講座には23名の皆さんが参加し、慈照寺(銀閣寺)研修道場で、花方教授・珠寶先生の献花と講話を拝見・拝聴し、境内の特別拝観をしました。また、豊前宇都宮氏ゆかりの寺・泉涌寺のほか、南禅寺・建仁寺の拝観をしました。



△京都東山文化スタディツアー
慈照寺研修道場での研修を終えて

無雙真古流とは～銀閣寺と新町木村家～

無雙真古流(むそうしんこりゅう)とは、室町幕府第8代将軍足利義政を「流祖」とあおぐ華道流派。宝暦14年(1764)、京都郡新町村(現みやこ町)の木村徳右衛門が、一国庵花頭(千葉官蔵)という人物より無雙真古流の名跡を譲り受けた。以後代々、新町村の木村家が「家元」として名跡を継ぎ、木村家は、足利義政創建の慈照寺(銀閣寺)を無雙真古流の「本山」として仰いだ。裏面参照。

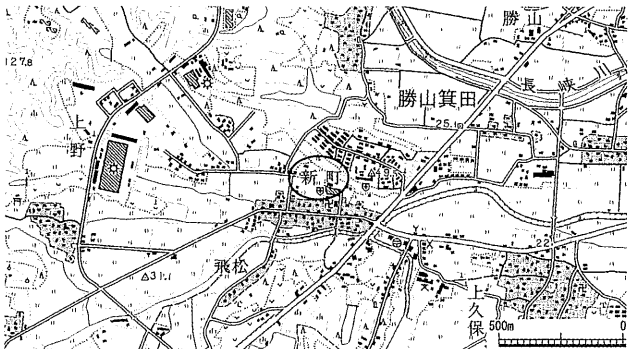
宿駅のすがた 新町村

宿駅・新町村

江戸時代、京都郡新町村(現みやこ町勝山松田新町区)は、「香春道」と呼ばれた街道の宿駅(宿場町)でした。香春道は、中津街道の宿駅・築城郡椎田村(現築上町椎田)と、秋月街道の宿駅・田川郡香春町村(現田川郡香春町香春)とを結ぶ脇街道で、新町村はその途中に設けられた唯一の宿駅でした。

宿駅とは、幕府や藩の公用旅行者のために、人や馬を提供する「人馬継立」の役目を負った町・村で、街道沿いに二〜五里程度の間隔で置かれました。徳川幕府は、関ヶ原合戦直後から、江戸を起点とした五街道の整備を進めましたが、地方の脇街道でも幕府の例にならって宿駅・交通路の整備が進められます。小倉小笠原藩では寛文年間(一六六一〜一六七三)を中心とした時期に宿駅が整備されたといわれています。

新町村は、その名の示すとおり「新しい町」で、江戸時代の初期、正保年間(一六四四〜一六四八)に作成された「国絵図」では「上久保之内新町」とあり、か



▲新町の位置 国土地理院1/25000「行橋」より

つては上久保村の一部であったことが知られます。町の起りについての伝承として、新町に大原八幡神社(上久保)の御旅所があり、その夜市の賑わいから町に発展したという伝承(福岡県史民俗資料編)と、上久保村の住人が旅人相手の餅屋を開いたのが町の始まりとする伝承(平凡社「福岡県の地名」)の二つがあります。

元禄七年(一六九四)五月五日、福岡藩の儒学者・貝原益軒は



▲現在の新町

旅の途中に新町村を通過しますが、その紀行文『豊国紀行』で新町を「馬駅也」と記している。少なくとも、この時点では宿駅として機能していたようです。

町のようす

宿駅は、公用の人馬継立という役目を負う一方で、旅人が宿泊し、道沿いには両側町が形成されて、様々な商売の店が軒を連ねる場所でした。そこは旅人がもたらした噂話などを聞くことのできる情報センターであり、また日用品などを調達できるショッピングセンターでもありました。

時代は下りますが、明治三年(一八七〇)の段階で、新町村の軒数は七〇軒(人口は三三三人)で、そ

明治3年(1870)京都郡新町村の商売鑑札(営業許可証)の数

上段:商売名				下段:鑑札数			
魚商	雑菓子	小店※	棒商	中店※	宿屋	大店※	塩商
24	11	11	8	8	6	5	4
室屋	板場	醤油手造	酒造	水車屋	質屋	紺屋	鍛冶屋
4	3	3	3	3	2	2	2
猪口酒	板場	合薬	瓦焼	瀬戸物店売	傘張	桶屋	合計
2	2	1	1	1	1	1	108

【史料】「明治三年京都郡新町村人別男女御改帳」(個人蔵)

※大店は穀類・反物・小間物・筆・紙・墨・油・酢・醤油その他荒物を店売り

※小店は餅・菓子・小間物・草履・草鞋類を店売り ※中店の販売内容は未詳

のうち五五軒が藩(当時豊津藩)から鑑札(営業許可証)を受けて何らかの商売をしていました。左の表はそれをまとめたもので、幕末・明治維新期における新町村の商売の様子をうかがうことができます。鑑札の総数は一〇八枚でしたが(約半数が複数の鑑札を所持。最高は六枚、際立つているのが「魚商」の多さです。これは、小倉藩が宿駅以外で魚屋を開くことを制限していたことに理由があると思われる(国作手永大庄屋嘉永元年日記三月二十九

参。なぜ、そのような制限をしたのか不明ですが、結果として、農山村に住む人が魚を買おうには、宿駅に行くか、または宿駅の魚屋が行商に来るのを待つしかなかったのです。いわば「魚商」は宿駅商人の専売のようなもので、だから新町村にも魚商鑑札を持つ人が多かったのでしょうか。

宿駅の「空気」

新町村の木村徳右衛門(生年未詳)一七八二は、宝暦十四年(一七六四)に、京都・慈照寺(銀閣寺)ゆかりの華道流派「無雙真古流」の名跡を福岡の一國庵花頭(千葉官蔵)から継ぎ、以後代々木村家当主が相伝しました。こういった文化的な深みは、人・物・情報が行き交うことで醸成された町場的な「空気」の中で素地が生まれたものでしょう。

京都郡上稗田村(現行橋市)の漢詩人・村上仏山は、明治五年(一八七二)頃の秋、新町村の宿屋に泊まり、「宿新町駅(新町駅に宿す)」という題で漢詩を詠んでいます。少し物悲しい秋の夜、四〇年以上前に旅した奈良吉野山近くにある宿駅の旅館を思い出し、感傷に浸った詩です。宿駅に漂う独特の「空気」のようなものが、仏山に遠い記憶を呼び起こさせたのでしょうか。(川本英紀)